

熊井の森通信

発行/熊井の森トラスト基金

〒350-0314 埼玉県比企郡鳩山町
楓ヶ丘2-2-1 かわせみハウス
NPO法人はとやま環境フォーラム気付
メール kawasemi3001@gmail.com

☎049-227-3001 FAX 049-227-3068 ホームページ <https://hatoyama.info/>

9月・10月の活動予定

■栗拾い味覚体験イベント 9月28日(日)



栗ひろい&焼きたてピザ
9月28日(日)
9:30~13:30
集合場所 鳩山町上熊井集落センター
1人3,500円 (5歳以上)
お土産 栗 500g付き





石窯で焼いたピザは最高だよ!

のびのびと育った栗林の中で のんびりと栗拾い
丸々と実った栗はおしどろ 500gのお土産つき
昼食は、トッピングを楽しんで、本格石窯で焼いた
ピザをどうぞ 焼きたてピザは最高だよ
熊井の森の中へ 大きなモミの木に迷いに行こう

申し込み問い合わせ 主催 NPO 法人はとやま環境フォーラム

申し込み 049-227-3001 kawasemi3001@gmail.com

申し込みはこちらのQRコードからどうぞ



■田んぼビオトープの作業 9月14日(日) 10月11日(土)



石場沼下の谷津にある休耕田のビオトープづくり作業を
始めます。第1期の作業内容は、鍬などを使って用地に生
えている草の引き抜きをして、水を張れる状態にする作業
です。結構な面積を手作業でやらねばなりません。ご協力
いただける方は、かわせみハウス前に午前8時に来るか、
現地に直接お越し下さい。

■ハト麦栽培の今後の作業方針会議 9月12日(金)

午前10時より、ハト麦栽培に関する打合せ会議をし
ます。今年のハト麦生産量は少量で、お店に出せるほどの商
品づくりは出来そうにありません。さてどうするか。来年
度に向けて、リスク軽減のために作付けを複数のやり方
でするか、作付け場所を変更するか、体制の立て直し策
を相談します。ピンチの時にこそ、みんなでアイデアを出
し合い、活路を開きたいものです。ご意見ご助言を頂ける
ようでしたら、ぜひ、お越しください。

昨年の参加者から「初めての経験でよかった」「子ども
にいろいろな体験をさせたいので、又来年も参加します」
などの感想が寄せられた『栗ひろいイベント』も、今年で
5年目の開催です。自然に育った丸々とした栗の実も魅力
的、石焼窯で焼いたピザも美味、食後の森散策も自然を満
喫できます。今、お声掛け中です。ご家族、お友達とといっ
しょにどうぞ。ちょっぴりお得なりピート割引もあります。

■アユ漁体験と魚捕りイベント協力 9月14日(日)

50年前に入間川水系の河川で行われていた地曳網をつ
かったアユ漁やピストン釣りが体験できるイベントです。
捕れた魚はミニ水族館で紹介し、アユの塩焼きも食べられ
ます。越辺川の石今橋の会場に9時集合。12:30終了。
駐車場あり。参加費大人・子供とも1,000円。先着50名。

申込先 NPO法人荒川流域ネットワーク
090-7804-5722 鈴木

9月・10月 活動スケジュール

- | | | | |
|-----|--------|--------|---------------|
| 9月 | 7日(日) | 午前8時半~ | 資源回収 |
| | 12日(金) | 午前10時~ | はと麦会議 |
| | 13日(土) | 午前9時~ | アユ取り草刈り(協力) |
| | 14日(日) | 午前8時~ | ビオトープづくり |
| | 14日(日) | 午前9時~ | アユ漁体験イベント(協力) |
| | 21日(日) | 午前8時半~ | 観察会 |
| | 21日(日) | 午後1時半~ | 理事会 |
| | 28日(日) | 9時半~ | 栗拾いイベント |
| 10月 | 5日(日) | 午前8時半~ | 資源回収 |
| | 5日(日) | 午前9時~ | 写真学校 |
| | 11日(土) | 午前8時半~ | ビオトープ草刈り・伐根 |
| | 19日(日) | 午前8時半~ | 観察会 |
| | 19日(日) | 午後1時半~ | 理事会 |
| | 25日(土) | 午前9時~ | エコフェスタ比企 |

8月の活動報告

■環境フォーラムHPの更新作業が完了7月21日(月)



第3回HP運営担当者会議を開催。前回の会議でまとめた主な改善点は、①トップページの写真を数枚が次々に替わるようにする、②最新ニュースの右側にトピックスとなる2つの記事を載せる、③全体を「活動拠点・熊井の森」「熊井の森トラスト基金活動」「地域・文化事業」「(動画)熊井の森へようこそ」の4つに分けて紹介する、④「団体概要」の記事内容を書き換える、などです。それらの改善状況を確認し、ひとまず初期段階の改善は終了としました。まだまだ不完全なところもいくつかあり、これから順次直していきますが、皆様からのご意見をお待ちしています。

■ハト麦畑周辺ほか草刈り 8月5日(火) 17日(日)

8月5日はハト麦畑の畝の周りと道路脇の草刈り、17日は観察会の駐車場に使っている石場沼下の休耕地の草刈りをしました。ここには野生のジュズダマ(ハト麦の親戚)が元気に育っていて、ハト麦もある程度湿気のある所が生育にあっているのではないかと。ついでに石場沼に向かう道路の両側の草刈りもしました。

■草刈機不具合に付き代替品提供を要請 8月8日



今年度に助成金で購入した草刈機は手押し式エンジン草刈機です。女性でも手軽に使えるだろうと期待していました。しかし、ハンドルの取り付け箇所が写真左のようになっていて、いくら締め直しても使っているうちにすぐハンドルがグラついてきて操作不能になってしまう。

メーカーに2回修理(保証期間中)に出しましたが、「不具合は確認できなかった」との回答。消費者センターに相談のうえ、8月8日付で代替品(写真右 構造変更品)との交換を求める要請状を送付しました。8月19日、メーカーのサポートセンター担当者から返信があり「現品の確認をした上で改めて対応をご連絡します」とのことだったので、8月22日に現品を送り返しました。

■町内ゴルフ場農薬使用状況報告書入手 8月7日

鳩山町内ゴルフ場5カ所の2024年度農薬使用実績報告書と農薬残留調査結果と検量線等関係文書、および2025年度の農薬使用計画書、並びに鳩山町自身が環境保全条例に基づいて実施している農薬残留調査結果を、情報公開制度に基づき入手しました。これらのデータは当団体自主実施の農薬残留調査日を決める判断材料として、また、守るべき自然環境の安全性・生態系保持の現況を把握する重要な基本資料として活用しています。

■熊井の森生きもの観察会を開催 8月24日(日)



「熊井の森」ピザ窯周辺で夜の生き物観察会を開催。小中学生の参加を期待していたものの、大人の参加者が多く予想以外でした。当日の日中は酷暑となり野外での活動が心配されましたが、日が落ちてからは幾分過ごしやすくなり、絶好の夜間の生き物観察日和となりました。



懐中電灯を照らしながら進んでいくと、昼間見慣れている虫たちの夜の表情や、寝ているトンボを発見したりとたくさんの昆虫との出会いがありました。

昆虫を見つけるだけでも楽しいのですが、講師の三森さんの、発見した虫たちの生態についての詳しくて面白い説明はとても勉強になりました。講師が持参したバットディテクターで蝙蝠の声を聴いたり、あっという間に予定時間に。体調を崩した方もなく無事観察会を終了しました。小中学生にもっと参加してもらえるようなアプローチの取り組みが必要だと感じました。(瓜生)

8月の活動報告

■Saitamaナショナル・トラスト市民シンポジウムに参加



8月2日（土）午後1時半、さいたま市産業文化センターホールで開催されました。猛暑の中、参加者121人（当団体からは4人）。開催趣旨は「ナショナル・トラスト運動は大きな岐路に立たされている。ナラ枯れなどによる管理の負担は増し、維持するための資金の確保が難しくなっている。運動を支えてきたボランティアの高齢化が進む中、新しい仲間を迎え入れることも容易ではない。いまこそ、この運動の価値を改めて共有し、ネイチャーポジティブが求められる今日、埼玉から全国へ向けて、持続可能な自然や景観の保護のあり方を発信しよう」

（報道発表資料より）という思いからの今回のシンポジウム開催でした。

主催は同シンポジウム実行委員会。安藤聡彦氏（トトロのふるさと基金理事長）を会長に、環境ネットワーク埼玉、いろいろ生きものネット埼玉、天覧山・多峯山の自然を守る会ほか、はとやま環境フォーラムを含む9団体の関係者が発起人（実行委員13人）となり、「自然・文化財を守る市民のチカラ」をテーマにした磯野弥生・東京経済大学名誉教授の記念講演に続き、各地からの報告として、当団体の「熊井の森におけるトラスト基金活動」の報告をしてきました。

埼玉県下では「川越蔵の会」の取組が第1号トラスト活動で、環境フォーラムはここ最近ではもっとも新しいトラスト活動の取組でした。メガソーラー問題から端を発し、「自分たち自身も山の持ち主と同じ立場になって、持続可能な地域づくり、自然環境保全の悩みを共有していきたい」とのナショナル・トラスト活動を始めた経緯報告は共感をもって聴いていただけたようです。

【参加感想】活動内容はそれぞれ対象も取り組み方も規模も様々だが、共通しているのは“守りたい”という意識。でも、取り組むメンバーの高齢化などで人材不足。新しい参加者も少ない、というのが実態で、我がNPOの活動も同じ問題を抱えている」（井田清）



鳩山はなぜ暑いのか？

8月5日（火）に鳩山町は群馬県伊勢崎市の41.8℃に続く第2位の41.4℃を記録し、30日には猛暑日日数最多記録51日と第1位（桐生市と並んで）となり、またまたニュースになりました。なぜ鳩山はこんなにも暑いのか。

今まで指摘されてきたことは、①関東平野に突き出した比企丘陵の東側にあり、周りを都幾川と越辺川に囲まれた盆地状の地形の真ん中に町があるという地理的要因です。観測所は町中央にある鳩山中学校グラウンドの端。年間降水量も1016mm（2023年）と少なく、JAXAの地球観測センターが鳩山町に立地されたのも、地盤の固さと雨の少なさからだそうです。ちょっと前には、②人口や工場が集中する東京の高層ビル等で遮断された熱せられた海風（熱波）が関東平野をさかのぼるこ



▲鳩山地域気象観測所 観測データは10分に1回、気象庁に送信

とによる気温上昇（ヒートアイランド現象）も大きな話題になっていました。鳩山町は埼玉県のほぼ中央にあり、この影響をまともに受けているのかもしれませんが。近年ではこれに加えて、③地球温暖化による日本列島全体の気温上昇が拍車をかけているのでしょう。元とは言えば、“観測者”である観測所が鳩山に「ある」からこそ暑いことがわかるわけで、埼玉県に14箇所ある観測所のひとつが鳩山町に設置されたことが運命の分かれ目でした。今年は、異常な暑さで農作物に影響が出ていて、われらがハト麦も打撃を受けています。鳩山町は8月10日の「鳩（はと）の日」にかき氷を無料配布したとか。暑さとの戦いはいよいよ深刻です。

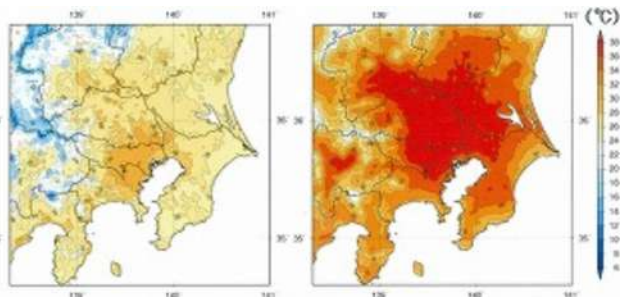


図 2013年8月11日05時（左図）、15時（右図）における関東地方の気温の分布図

▲ヒートアイランド現象 都市なし（左図） 都市あり（右図）
気象庁HP 都市気候シミュレーションより

彼岸花——その情熱的な一生



8月5日、鳩山町は41.4℃の猛烈な暑さとなり、またもや世間に注目されました。残暑が依然として厳しい中、「暑さ寒さも彼岸まで」という先人たちの言葉を信じてつ涼しい秋の到来を待つしかないですが、秋の訪れを告げる植物の一つといったら、やはり彼岸花でしょう。

日本では、彼岸花は秋の彼岸の頃に咲くことから命名されたようですが、中国では、彼岸花のことを「石蒜」（岩場の陰に生えていて球根が大蒜に似ているから）や「竜爪花」（花びらのしわしわした様子が竜の爪に似ているから）と呼びます。植物の命名には人間の思いが託されていることがこの一例からもよく分かります。

彼岸花は綺麗な花の容姿に反して、球根には強い毒性の成分が含まれているため、害獣の被害を受けやすい田んぼの畦や墓地の周辺に植えられてきました。越辺川の土手にも、周辺の田んぼの畔にもたくさん生えているのは昔の名残でしょうか。しかし、飢饉のときには、球根の毒を抜いて食用とされた歴史もあり、救荒植物としても大いに役立ちました。

時代の変遷とともに、彼岸花は主に観賞用の植物として定着してきました。花が終わった後に出てくる葉っぱも濃緑色で独特な風情を漂わせています。葉が枯れたら花が咲く、花が終わったらまた葉が出るという自然の循環によって、彼岸花は情熱的な一生を送ります。（王 菲）

森の中へ

シオカラトンボ——5種類ある青い色のトンボ



青っぽい粉を吹いたような見た目のトンボを夏によく見かけます。先日の熊井の森の観察会でも飛んでいて、よく見てみると同じような色合いのトンボでも大きさや模様が違うことに気が付きました。

一番よく見るのは「シオカラトンボ」で、最も知名度が高いトンボかと思います。目が青く、お腹が半分ほど黒く、翅の根本が透明です。次いでよく見るのが「オオシオカラトンボ」でシオカラトンボよりも気持ち大柄で目が黒く、お腹の先っちょだけ黒く、翅の根本に黒い模様があり、全体的により青みが強く見えます。

よく見る青いトンボと言えばこの2種が圧倒的に多いのですが、他にも「コフキトンボ」や「シオヤトンボ」「ハラビロトンボ」といったよく似たトンボも見られます。この3種はシオカラトンボよりも少し小さく、ハラビロトンボは名前の通りお腹が幅広く寸詰まりのように見えます。シオヤトンボは見られる時期が4月頃からと、夏に見られるほか4種に比べて発生が早いです。他にも胸の模様などでも見分けられるので、青いトンボを見かけた際は「本当にシオカラトンボかな？」と疑ってみてください。

今まで同じモノだと思っていたら、実は別物が混じっていたというのは、なかなか面白い気づきだと思います。違いの分かる人ってなんだかかっこいいですね。自分自身そうなりたいものです。（愛場 結偉）

活動後記

■7月9日、ちょっくま前のこもれびファームで、『通信42号』で紹介した共同菜園のメンバー隈本由香さんが監督プロデュースする動画の撮影が行われた。8月6日には泉井交流体験館でも撮影があり、これで3回目の鳩山ロケ。俳優・スタッフは20代と若い！頑張ってるなあ。■2023年4月農地法が改正。農家でなくても誰もが田んぼや畑が買えるようになった。用途転用規制は同じで、農地の利用促進や耕作放棄地の解消が大きな目的だという。だが、太陽光発電施設建設用地として休耕地利用の道が開けるのではないかと心配だ。■休耕地でのピオトープづくりを始めて気付いたことあり。林業・農業・環境保護の個別支援政策はあるが、雑木林と田畑とを一帯にした「里山」づくりを支援する包括的な政策（補助金・助成金）が見当たらない。（ケンジ）



定例観察会のご案内

開催日：毎月第3日曜日
集合場所：かわせみハウス前
集合時間：午前8時半
（終わりは午前10時ごろ）

9月・10月は午前中の実施に変更！

興味のある方はどうぞお気軽にお越しください。鳩山ニュータウン内かわせみハウス前に8時半に待ち合せて、相乗りで熊井の森に向かい、帰りもご一緒できます。

はとやま環境フォーラムHP➡

